

令和4年度 事業実施計画書

国府町まちづくり協議会

1. モデル的事業名	<b>アーカイブズ構築事業</b>
2. 事業名	飛騨国府歴史まちづくり推進事業 「飛騨国府アーカイブズ」構築事業
3. 目的	地域の豊かな歴史文化遺産を未来に確実に継承していくため、散逸・滅失の危機に瀕している資料など収集・保存すべき歴史資料等の現況確認・記録保存を進める。その上で資料の利活用を図る。
4. 事業内容	<p>地域にある収集・保存すべき歴史資料・記録資料を「飛騨国府アーカイブズ」と捉え、これらの現況確認・記録保存を進める。あわせて国府町史編纂事業の成果も継承し活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査（資料提供の呼びかけに応じた資料所蔵者のもとへ出張調査・撮影、各区有文書や学校資料、行政資料などの調査・撮影、国府町有線テレビ放送（KHK）映像資料の現況調査など）。</li> </ul> </li> <li>●平成31年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資料等の現況確認および記録保存。</li> <li>・「こくふ歴まち出前講座」として、資料調査の成果を活用した講座を開催。講座対象を、前年度の「ふるさと歴史教室」より絞り込み、受講者の属性やニーズに合わせた内容にする。</li> <li>・史跡保存団体設立支援のモデルケースとして、広瀬城跡の史跡保存団体設立にむけた働きかけをおこなった。</li> <li>・『飛騨史料大綱 下巻』編集・刊行（400部）。</li> </ul> </li> <li>●令和2年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資料等の現況確認および記録保存。</li> <li>・デジタル資料の公開にむけたデータの整理。</li> <li>・「こくふ歴まち出前講座」を開催して資料調査で得られた新たな知見を地元に戻す。</li> </ul> </li> <li>●令和3年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資料等の現況確認および記録保存。</li> <li>・デジタル資料の公開にむけたデータの整理。</li> <li>・個人所蔵資料の公有化を支援することで資料保存を図る。</li> <li>・『国府町ふるさとガイドブック 増補改訂版』編集・刊行。</li> </ul> </li> <li>●令和4年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・『国府町ふるさとガイドブック 増補改訂版』全戸配布。</li> <li>・歴史資料等の現況確認および記録保存。</li> <li>・デジタル資料の公開にむけたデータの整理。</li> <li>・「こくふ歴まち出前講座」（町内会との共催で資料展示や史跡巡りのような企画も実施）開催。</li> <li>・2日間限定で地域資料・文化財の特別展示を開催する。</li> <li>・『飛騨史料大綱 中巻』『飛騨史料大綱 近代編』を編集・刊行。</li> </ul> </li> </ul>

## 5. 効果見込

- ・資料のデジタル化と公開に向けた権利関係の処理を済ませた上で、既存のデジタルアーカイブプラットフォームを利用することで、最小限の労力で公開が実現できる。
- ・国府地域の記録資料の特長として、国府町有線テレビ放送（KHK）が制作した番組等の映像資料があり、これをアーカイブの目玉として位置づけることができる。
- ・資料のデジタル化により地域の歴史文化遺産を未来に継承することができる。災害により文化財等に被害が生じた場合に記録保存したデータが文化財レスキューにおける重要な材料となりうる。
- ・地域の魅力を再発見することで、さまざまな局面で新たな価値を創造する可能性が期待される。
- ・地域住民に地域への誇りと愛着を育むことで、住み続けたいと思えるまちづくりの実現に近づくことができる。
- ・史跡の地元住民や地権者などに史跡保存に対する意識を高めてもらい、地域の歴史遺産として未来に継承できる体制づくりを進め、保存団体設立のノウハウを得ることで、多くの史跡にその方法を敷衍・応用させることが期待される。
- ・史跡や文化財の保存について、個人や町内会・氏子などが課題を抱えているケースが少なくない中、その相談窓口の役割を果たすことができれば、史跡保存にむけて有効な働きが可能となる。

令和4年度 事業スケジュール

「飛騨国府アーカイブズ」構築事業

月 日	項 目	事業内容（対象・方法等）	摘 要
4月～3月	資料調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料所蔵者のもとへ出張調査・撮影</li> <li>・各区有文書の調査・撮影</li> <li>・国府小学校にて学校資料調査・撮影</li> <li>・大坪二市資料の調査・撮影</li> <li>・市公文書館保管の行政資料、国府町史編纂資料に関する調査</li> <li>・未指定の文化財を含めた地域の文化財・歴史遺産の総合的な把握</li> </ul>	
4月～	目録作成・資料整理	撮影資料の整理、公開にむけた調整（デジタルアーカイブ作業）	
4月～5月	視察	山城の史跡保存先進事例の視察	
4月	印刷製本	①『国府町ふるさとガイドブック 増補改訂版』印刷、全戸配布	
4月～3月	編集、印刷製本	②『飛騨史料大綱 中巻』、③『飛騨史料大綱 近代編』編集・刊行	
6月～3月	講座	こくふ歴まち出前講座（4回）①宮地・東門前、②鶴巣、③④入門講座、⑤⑥特別講座	
6月～	会議	保存団体設立支援（広瀬城＝名張・瓜巣の各町内会、および地権者との協議）	
8月	作業	国府中学校生徒による資料デジタル化作業	
9～11月	会議	保存団体設立支援にむけた協議	
10月	展示会	地域資料・文化財の特別展示	
～3月	会議	保存会設立（設立にむけた定款づくり、啓発事業）	

令和4年度 モデル的事业 収支予算書  
(飛騨国府アーカイブズ構築事业)

【収 入】

単位：円

区 分	予 算 額	摘 要
市 補 助 金	1,370,000	協働のまちづくり支援金 (モデル的事业)
合 計	1,370,000	

【支 出】

単位：円

項目・科目	予算額		摘 要
	予算額	支援金充当額	
「飛騨国府アーカイブズ」構築事业			
報償費	30,000	30,000	講師謝礼 出前講座 5,000円×6回+
需用費	910,000	910,000	消耗品費・印刷製本費等 冊子製本①40頁×1550部 505,300 冊子製本②120頁③40頁×400部 326,000 チラシ印刷4,000、消耗品20,000 展示パネルなど資材54,700
使用料	110,000	110,000	先進事例視察 (郡上市・可児市・砺波市ほか) 55,000円 (レンタカー借り上げ料) 会場使用料、展示ケース等借り上げ料ほか
役務費	50,000	50,000	『国府町ふるさとガイドブック 増補改訂版』全戸配布
人件費	270,000	270,000	デジタルアーカイブ作業等の委員報酬 1日5,000円×54日=270,000円
合 計	1,370,000	1,370,000	